

ひだまり

ISO9001:2015 認証機関

ISO 9001
BUREAU VERITAS
Certification



日本認知症ケア学会認定施設

岡山ひだまりの里病院 広報紙
第127号

2025年1月発行
発行責任者 藤田文博



謹賀新年

新年、おめでとうございます。当院に関わってくださっている皆様へ、新年のご挨拶を申し上げます。

これまで新型コロナウイルス感染症の影響で、患者さんの「外出レク」やご家族への「家族会」など控えざるを得なかったのですが、昨年から再開することができました。早くコロナ前の活動に戻したいと思っていますので、うれしい限りです。

この間の当院の新たな取り組みは、病棟の医療活動において「短期集中治療チーム」を立ち上げました。認知症症状の評価と治療ケアの徹底を図り、より早期に元の生活の場へ戻すことを目的に治療ケアを行っています。また昨年7月には「グループホームひだまりの家」において、認知症に関する悩みや相談を受ける窓口として「岡山市伴走型支援事業」を受託しました。名称を「きぼう」とし、この名の通りご本人、ご家族、地域の人々の希望を集め、実現する活動を行います。

昨年10月、当院が開院して25年が経過しました。「認知症の人がその人らしく生きることができるよう援助します」この当院の理念の基にがんばってきた四半世紀。認知症の人とご家族のために、当院はこれからも全力を尽くします。
本年もどうぞよろしく願っています。

岡山ひだまりの里病院 院長 藤田文博

<門松作り>

ご自身では門松作りの経験が無い患者さんが「父親が作っていた」と、自然に集まってこられ手伝って下さいました。正月関連の物は自然の物を扱います。門松は特に関心が高く『元気になる!』そんな印象を受けました。



<デイケアより>

利用者さんの中には家では作っていた方もおられ「お父さんが全部作っていた。山があるから竹も裏白も切ってきてなあ」「私はせんどのよ、全部お父さん」と懐かしんでいました。

出来栄えに「上等!」「立派になった」と笑みをこぼしていました。



正月準備



<お飾り>

女性患者さんは花を生ける感覚で、色彩・バランスにセンスが光っていました。



<竹磨き>

普段無口な男性患者さんが無心になって磨き上げて下さいました。おかげでピッカピッカになりました。

院内活動交流集会

2024年12月15日、院内活動交流集会を久々の対面にて開催し、院内各部署より12演題の発表がありました。「高次脳機能評価を活かした認知症ケアの実践(※)」「家族と共にチームで取り組んだ看取りケア」「患者に合った個別ケアから隔離解除につながった事例」「認知症の方の社会参加を意識した取り組み」「相談活動・訪問活動の変遷まとめ」や、それぞれの専門的視点をいかした「認知症医療・ケアの実践報告」に加え「新たな調理法の試行」「DX的な視点での業務効率化の取り組み」などもあり、幅広く充実した内容でした。質疑も活発に行われ、感想には「他部署の報告を聞いて自分もがんばりたい」「自部署の取り組みに活かしたい」などの声も多く寄せられました。当院の医療活動の到達が確認できる一日となりました。

事務長 黒瀬 健弘



～院内活動交流集会 演題より～

若年性アルツハイマー型認知症の方のADL（日常生活動作）評価とケアの構築
 ～進行していく症状をどうとらえ、どう援助するかを高次脳機能評価をもとに考える～
 デイケア科 作業療法士 三浦 麻衣子



(※)の一部を抜粋し、紹介します。

- **はじめに**：若年性認知症は高齢発症に比べ進行が早く様々な症状を呈する。今回、当院デイケアの若年性アルツハイマー型認知症と診断された女性の日常生活動作に見られる症状について、高次脳機能の視点から評価を行い、ケアを構築した過程を報告する。
- **ADL評価と介入**：動作を細分化し、高次脳機能的な視点で観察・評価をし、仮説を立て特徴に応じたケアを実施。
- **結果**：トイレ動作の一部の遂行や援助がスムーズになり介助量の軽減がみられた。食事でも声掛けや一部介助で自力摂取を継続できた。
- **まとめ**：本人の環境を整えケアを構築することは、認知症が進行していく中でも本人の能力や自信・意欲を維持する一助となった。高次脳機能評価を行うことで臨床像と紐づけ、できない原因は何か、どうしてその症状を呈するのか、活かせる能力は何かを明らかにし、「どのような環境で、どのような援助をすればできるのか」というケアを構築していくことが重要。この裏付けをもって関わりを続けていくことが、認知症の支援の基盤になると考える。



幻想神社だ！ 秋祭り！



2024年で2回目の秋祭り。2023年は篠笛に合わせ、にわか仕込みの職員による獅子舞いが舞っていました。今回はどんな祭りにしようかと議論し、そこで出たテーマは『幻想神社』。文化と神事と芸術の三位一体を目指し、神輿に灯籠にポスターにと、入院患者さんとともに準備にいそしみました。

祭りは元来、祈願・感謝・慰霊を目的としています。参加された患者さんは静かに手作り神社の前で手を合わせ、健康を祈り、今日の日を感謝されていました。射的、太鼓と賑やかに過ごす中、その場にいる人の心がひとつになる時間がありました。それは寒さの中、満100歳の患者さんが来られた時です。自然と拍手が起こっていました。その患者さんは嬉しそうに会釈され、神輿を堪能し帰り際に「また来年も来ます。ありがとう」のお言葉。拍手が再び起こり、厳かな時間をともに過ごさせてもらった私たちの方こそ感謝です。

2025年は『千本鳥居』もいいなと、夢を含ませているところです。 作業療法士 中浜 暢子



3階病棟

ほころぶ顔 やきいもレク



2024年11月25日、3階病棟では中庭で焼きいもレクをしました。

入院されると病棟外に出る機会が少なくなるため、患者さんへ何かできないかとの思いから職員で話し合いを重ねました。患者さん全員が参加でき、時期的にもぴったりの「焼きいもレク」を開催することにしました。

当日は天候や気温にも恵まれ心地よい気候の中、患者さん全員、参加することができました。

「焼きいもなんて昔はしょったけど久しぶりじゃなあ」「子どもの頃はお菓子なんかないから、芋をふかして食べとったんじゃ」と昔を懐かしむ声や、「甘くておいしい」「おかわりをもらおうか」と顔をほころばせていました。患者さんの喜ぶ声や表情があり、企画して良かったと思える一日となりました。

介護福祉士 妹尾 恵助



知恵と経験の交流

～看護介護活動研究交流集会 in熊本～

2024年10月27日～28日、「第16回全日本民医連看護介護活動研究交流集会」が熊本城ホール（熊本市）で開催されました。約6年ぶりの対面開催、テーマは「憲法でアクション!! ケアこそ未来を切り拓く」です。全国から701人の仲間が集まり、当院からは看護師1名、介護士1名が参加し、講演発表も行いました。

当院の発表は2023年から取り組みを始めた「短期集中治療チーム」の紹介です。全国各地で共通の悩みがあり、当院だけでなく各々の発表を参考に「職場にも取り入れてみよう」「同じ悩みがあったけど、こんな解決法があったんだ」など、次に進むための意見交換も行われていました。他県の人たちと交流する機会は少ないため、とても有意義な時間となりました。

看護師 銀羽 あす香



悩みを共有 ～気持ちが軽くなる家族会～

2024年11月9日、今年度2回目の家族会を開催しました。今回は2部構成。前半では入院患者さんのご家族全員が集まり、医師、看護師、介護福祉士、作業療法士、精神保健福祉士が、日頃働く上で大切にしていることをリレー形式で発表しました。

後半では各病棟に分かれ、写真やパワーポイントを用いながら、病棟での取り組みや入院生活の様子を伝えました。患者さんに提供している栄養料のおやつも召し上がってもらいながら質問を受けたり、日頃感じている思いを自由に語っていただきました。参加されたご家族からは「それぞれの職種のこと良くなった」「コロナ禍での入院中の様子を知る機会がなかったので良い機会となった」「共通の悩みを持っているとわかり、気持ちが軽くなりました」等の感想をいただきました。

今後も家族同士のつながりが持てるよう、家族会を継続していきます。

精神保健福祉士 馬井 美穂



ごあんない

岡山ひだまりの里病院

〒702-8012

岡山市南区北浦822-2

電話 086-267-2011 FAX 086-267-2013

ホムパ ーシ http://hidamari.hayashi-dorin.or.jp/

《外来》

診療日時：月曜～金曜
9：00～12：30

* 予約制です。まずは
お電話でご予約下さい

《認知症デイケア》

実施時間：月曜～土曜
9：30～15：30

(日曜・年末年始はお休み)

相談員、看護師、作業療法士による訪問看護を行っています。詳しくはお電話下さい。

無料低額診療事業を実施しています。
医療費でお困りの方はご相談ください。
入院中の差額ベッド料はいただいております。